

渡辺ハウジングOBの皆様と
未来のお客様にお届けする

やすらぎ通信

渡辺ハウジング
03-3959-8743



陽の光もうららかに、春たけなわ!という頃ですが、今春は、コロナウイルスが猛威を振るい、楽しみにしていたお花見もできず、気がつけば葉桜・・・。

また、4月といえば入園・入学、そして社会人としての一步を踏み出すなど節目の時ですが、今年は、コロナウイルス感染防止のため、従来通りの式典もできないまま、自宅待機を余儀なくされている方も多くいらっしゃると思います。

とても残念ですが、コロナウイルスの危険は、日本だけではなく全世界に蔓延しているため、止めようがない現実に恐怖を覚えます。



日常生活においても様々な影響が出ており、不安も不満も沢山ありますが、ここは我慢。終結に向けて、今一人一人ができること、しなければいけないことをもう一度考え、掛け替えのない大切な命を守りましょう!

失敗事例から学ぶ家づくり成功の秘けつ! (17)
新たなテーマとして、家づくりの際に注意すべき大切なポイントを書かせていただいています。ご参考になれば幸いです。

【電気代、水道代が予想以上に掛かる・・・】
賃貸アパートに暮らしていた時よりも、電気代が相当かさむようになったという例があります。

実際、アパートの時の2~3倍の電気代が掛かると覚悟しておいた方が良いでしょう。

部屋数がどのくらいあるか、照明器具はどのくらい増えたか? 等によってとるべき対策は異なります。

電気代の負担を最小限に抑えたいと考えている人は、必要以上に豪華な照明器具を付けたり、数を増やしたりすることは計画の段階から慎重になった方が良いでしょう。

また、白熱灯か蛍光灯を使用するかによっても、掛かる電気代は異なりますが、生活をする中で、できるだけこまめに電気を消すよう心掛けることも大切です。



そしてもう1点、初期費用は掛かりますが、LED照明にすることにより電気代を削減できます。

以前は、白熱灯や蛍光灯に比べデザイン数が少なかったのですが、今ではLEDの照明器具のデザインも豊富になり選択肢が広がったため、こちらが主流となっています。

水道代については、例えばトイレは、生活する中で使用頻度がとても高いので、便器は水を大量に使うタイプを避けるようにします。

今は、節水型が主流なので、以前よりも水道代は安くすむでしょう。



生活に密着した電気と水、効率よく使いましょう。

次回に続く

「イースター」

イースターとは、春の女神である「Eostre (エオストレ)」や春の月名「Eostre Monat (エオストレモナト)」に由来すると言われ、イエス・キリストの復活を祝うキリスト教では最も大切な行事のひとつです。

春分の日のおと最初の満月の次の日曜日、イースターからの7日間が復活祭と決められています。

イースターには、子ども達と一緒に卵の殻をカラフルに彩る「イースターエッグ」を作ったり、大人がイースターエッグを隠し、子ども達がそれを探して遊ぶ「エッグハント」、その他にも、坂の上から殻を割らないよう上手に卵を転がす「エッグロール」や、卵をスプーンに乗せ落とさないよう競う「エッグレース」などを楽しみます。

「イースターエッグ」は、生命の象徴。イエス・キリストが十字架上で亡くなってから3日目に復活したことと、ひよこが卵の殻を破って誕生することに由来している、とされています。



ありがとう、
笑顔に救われました



子どもを育てる親にとって、成長の時々を感じる思いは様々です。嬉しいこと、楽しいことはもちろん、悲しいこと、辛いこと・・・たくさんありますよね。

今回は、悩みをずっと抱え続けていた母親が、ある一人の女性に救われたというお話を紹介します。

お母さんには、ある悩みがありました。それは、もうすぐ3歳になる息子が上手に言葉を喋ることができないこと。

ある日、お母さんはその悩みを、いつもバス停で出会うよその子どものお母さんに、思い切って相談したのです。

子どもが3歳を目前にしているのに「二語文」*が出ない。心配になり専門医にもいろいろ検査をしてもらったけれど、今のところ病名がつくようなものではないので、しばらく様子を見ましようとの判断でした。でも、親としては不安で仕方がなかったのです。

そこで、いつもバス停で一緒になるお友達のお母さんが子どもに話しかけてくれているのを見て、思い切って告白しました。

「うちの子、お喋りができないんです。だから、折角声を掛けてくれたのに返事ができなくてごめんなさい」って。



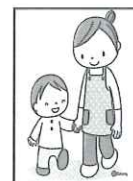
そしたら、そのお母さん、「大丈夫、大丈夫。いつか喋れるようになるよね。言っていることはちゃ〜んとわかっているもんね」と笑いながら子どもの頭を撫でてくれました。

その日以来、そのお母さんは、息子に「バイバイ」と声を掛けてくれたり、ハイタッチをしてくれるようになりました。



いつもより、たくさんたくさん声を掛けてくれるようにもなりました。

そして今日は、バス停まで子供と手をつないでいってくれました。



そんなことがあった後のある日曜日、息子と二人で近所へ散歩に出掛けました。その時です。

息子が突然「あっち、いく」と私の手を引っ張ったのです。

初めて聞く彼の二語文に嬉しくて思わず涙が・・・。ありがとう、あなたが言った通りでした。

いつも笑顔で接してくれたこと、本当に感謝しています。子どもと向き合っていて必死になっている私を、決して追い詰めず、いつもいつも笑顔で「大丈夫、大丈夫」と言ってくれたあなたのおかげです。子どもだけでなく私がいつも救われていました。あなたのように、やさしい笑顔で他の誰かの役に立てるように私も頑張ります！！

*「二語文」とは、1歳半～2歳半くらいの幼児が話す言葉で、「わんわん、いっちゃった」とか「ブーブー、きた」・・・等など単語と単語を組み合わせて文章として表現することです。

「編集後記」

木の芽も急に伸びて、緑の色も日増しに濃くなるこの頃、如何お過ごしでしょうか？

従来なら、爽やかな風を受けて心弾む季節ですが、今年は、コロナウイルスとの戦いに日々苦慮しています。

目に見えない巨大な敵との戦いは、何時終息するのかさえ分からずに不安ですが、皆で気持ちをひとつにして、この大変な時を乗り越えましょう！

いつもと違う日常に戸惑いつつも、何気ない平穏な毎日を過ごせるありがたさを改めて痛感しています。

皆さん、くれぐれもお身体大切にお過ごしくださいね。

今月も、やすらぎ通信をお読みいただき有難うございました。ご意見・ご感想をお待ちしています。



「やすらぎ通信」をメールでご覧いただけます。ご希望の方は、アドレスをお知らせください。

編集責任者 渡辺 田鶴子